

茨城大学茨苑祭特別展示

「震災を生き抜いた史料たち」

茨城史料ネットでは現在、東日本大震災で被災した文化財・歴史資料の救済・保全活動に取り組んでいます。11月10日(土)・11日(日)に開催される茨城大学学園祭「茨苑祭」で、保全を終えた救出史料の一部を展示・公開します。展示史料は、学生たちが自分たちで選び、説明文や釈文を作りました。また学生たちがボランティアで参加した、これまでの歴史資料の救出・保全活動の様子を、写真パネルで紹介します。詳細は以下の通りです。お問い合わせの上、ぜひご来場ください。



日時：2012年11月10日(土) 9:30～17:30

11月11日(日) 9:30～17:00

場所：茨城大学茨苑会館2階集会室2（茨城大学水戸キャンパス）

主催：茨城大学人文学部歴史・文化遺産コース有志

共催：茨城史料ネット

同時開催：パネル展「茨城史料ネットの活動」

〔問合せ〕茨城史料ネット事務局 山川千博 yamakawachihiro@hotmail.com
※当日は駐車場に限りがありますので、ご来場の際はできるだけ公共交通機関をご利用ください。

〈主な展示品〉

○安政4年屋敷絵図

北茨城市関本町（旧山小屋村）の旧家から救出したこの絵図には、「本宅」「土蔵」「井戸」「馬屋」等が表記され、当時の同家の様子がよくわかります。また絵図には「本陣」の表記もみられ、平潟港と棚倉城下とを結ぶ平潟街道上の山小屋宿において、当家が本陣に指定されていたことがわかります。また関係史料として、棚倉藩主一行が山小屋宿内に分宿した際の、宿割を記した「御宿割覚」も同時に展示します。



○明治15年塩方調

北茨城市平潟港で塩問屋を営んだ、商家「油屋」に関する史料です。近世・近代の平潟港は、塩の入津により栄えました。救出した同家史料の中には、この塩方調の他にも25点の塩関係帳簿が含まれ、これらは、港の塩取引の実態を探ることができる貴重な史料です。また相模国浦賀の豪商大黒屋儀兵衛が当家に塩を廻送した際の「塩送状」も、同時に展示します。

○結び亀甲に鬼蔦紋陣羽織

福島第一原子力発電所事故の被害に遭った福島県双葉町の旧家から救出した江戸時代後期の陣羽織です。同家の家系図には、弘化2年(1845)に中村藩主相馬益胤より、亀甲紋付きの羽織を拝領したことが記されており、それが、この陣羽織にあたると思われます。今回は、同時に救出された甲冑とともに展示します。



〈その他にもまだまだ展示します〉

